

病害虫発生予察情報(飛騨地域) 7月予報

【 水稲 】

いもち病(葉いもち)

BLASTAM(アメダスデータを用いたいもち病感染好適条件の判定システム)によると、6月第3半旬以降、感染好適日、準感染好適日が確認されています(表)。今のところ、ほ場調査において本病の発生は認められませんが、向う1か月の降水量は平年並~多いと予報されているため、今後の発生に注意してください。

【 野菜 】

タネバエ

管内2か所に設置したトラップにおいて5月第5半旬~6月第5半旬の累計誘殺数の平均が131.1頭と平年(79.8頭)より多いため、今後の農作物への被害発生が懸念されます。

本虫の被害を防ぐため、発生ほ場では播種時に粒剤を施用するとともに雨よけ栽培ではハウス開口部に1mm目の防虫ネットを隙間ができないように展張し飛来侵入を防止してください。

アブラムシ類

管内4か所に設置した黄色水盤トラップにおいて5月第5半旬~6月第5半旬の累計誘殺数の平均が731.1頭(平年280.0頭)と多く、今後の発生増加が懸念されます。

発生前や発生初期の薬剤防除及びほ場周辺の雑草等の管理を徹底するとともに、シルバーマルチやシルバーテープ等による飛来侵入対策を実施してください。

灰色かび病(トマト)

本病は、果実、花卉、茎葉等の枯死部より発生し、気温20℃前後で90%以上の高湿度が続くと著しく多くなります。今後の降水量は平年並~多いと予報されているため本病の発生に注意してください。

本病の発生を抑えるため、罹病部や枯死部をこまめに除去しハウス外へ持ち出すとともに、わき芽かき等を適正に行い通気性を確保したうえで予防防除を徹底してください。なお、本病は薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統薬剤の連用を避け、系統の異なる薬剤でローテーション防除に努めてください。

○主な病害虫の発生状況及び今後の予測(7月)

水	病害虫名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項
			1半旬	2半旬	3半旬	4半旬	5半旬	6半旬	
稲	生育(高山市)	並							(生育はコシヒカリ)
	葉いもち	並			<発生最盛期>				葉いもち
	紋枯病	並			<初発生>				BLASTAM発病好適条件(防除所HPで公開)の5~10日後に発病する。発生しやすい地域では防除を徹底する。
	斑点米カメムシ類	やや少	<畦畔雑草に発生(7月~)>						斑点米カメムシ類 一斉草刈り実施期間(7/10~20)に草刈りを実施する。
	防除適期		▲←	葉いもち(初発前)		→▲			
				▲←	紋枯病(穂ばらみ~出穂期)			→▲	
					▲一斉草刈り▲ (7/10~20)				
ハウレンソウ	べと病	並	<連続発生>						べと病
	タネバエ	多	<成虫発生盛期>						感受性品種では梅雨明けごろまで発病に好適な時期になるため、薬剤による防除を必ず行う。
	防除適期		▲←べと病(感受性品種、防除)→▲ ▲←タネバエ(防除)→▲						タネバエ 定植時に粒剤を施用する。
トマト	灰色かび病	並			<発生盛期>				灰色かび病
	防除適期		▲←	灰色かび病 (予防剤の散布、ローテーション防除)				→▲	多発してからの防除は困難なため、ハウス内をよく観察し、花がらや葉先枯れは速やかに除去するとともに、予防剤を散布する。耐性菌が発生しないようにローテーション防除を実施する。

注) ▲、▲←→▲: 防除適期

	病害虫名 (防除適期)	生育状況 発生量	発生時期及び防除適期						防除上の注意事項
			1 半旬	2 半旬	3 半旬	4 半旬	5 半旬	6 半旬	
野菜全般	コナガ	少	< 連続発生 >						コナガ
	アブラムシ類	多	< 連続発生 >						薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統薬剤の連用は避ける。
	防除適期		▲← コナガ (ローテーション防除) →▲ ▲← アブラムシ類 (防除) →▲						
果	生育 (高山市)	並							(生育はモモ)
	シンクイムシ類 (特にナシヒメシンクイ)	やや少	第2世代 < 幼虫最盛期 >						シンクイムシ類
	カメムシ類	少	< 越冬世代成虫・新世代成虫 >						心折れ枝の多かった圃場では、果実への食入に注意する。
	せん孔細菌病 (モモ)	多	< 感染拡大期 >						カメムシ類
樹	防除適期		▲← シンクイムシ類 (防除) ▲ ▲← カメムシ類 (果樹園飛来時) →▲ ▲← モモ せん孔細菌病 →▲						夜間の気温や湿度が高いと突発的に飛来するため注意する。
									せん孔細菌病 発病が確認された園では、本病に登録がある薬剤を選んで防除を行う。

注) ▲、▲←→▲：防除適期

調査データ

表 BLASTAM によるいもち病発病条件

	河合	神岡	白川	栃尾 (上宝)	高山	六厩 (荘川)	宮之前 (朝日)	萩原	宮地 (下呂)	金山
6/11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/14	-	-	-	△	-	-	-	-	-	-
6/15	-	-	-	-	-	-	-	◎	-	-
6/16	-	-	-	-	-	○	-	-	-	●
6/17	△	●	△	○	-	-	○	-	-	-
6/18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●
6/19	△	●	-	△	●	-	△	-	-	-
6/20	△	△	◎	-	△	○	◎	-	-	-
6/21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/24	-	△	-	○	-	-	-	◎	-	-
6/25	-	-	-	○	-	-	○	◎	-	●
6/26	◎	-	△	-	-	-	-	-	-	-
6/27	-	-	-	-	-	-	◎	-	-	-
6/28	△	△	-	◎	-	○	-	-	-	-

凡例 △：準好適条件（湿潤時間10時間以上だが、前5日間の平均気温は20℃未満）
 ▲：準好適条件（湿潤時間10時間以上だが、前5日間の平均気温は25℃以上）
 ○：準好適条件（湿潤時間10時間以上だが、湿潤期間の平均気温は15～25℃の範囲外）
 ◎：準好適条件（湿潤期間が湿潤時間中の平均気温ごとの必要な時間より短い）
 ●：好適条件（湿潤時間中の平均気温が15℃～25℃であり、湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間を満たし、当日を含めてその日以前5日間の日平均気温の平均値が20℃～25℃の範囲にある）
 -：好適条件、準好適条件は満たされなかった
 空白：欠測値があるため判定不能
 * 感染好適条件が現れると感染し、潜伏期間（5～10日）を経て発病します。

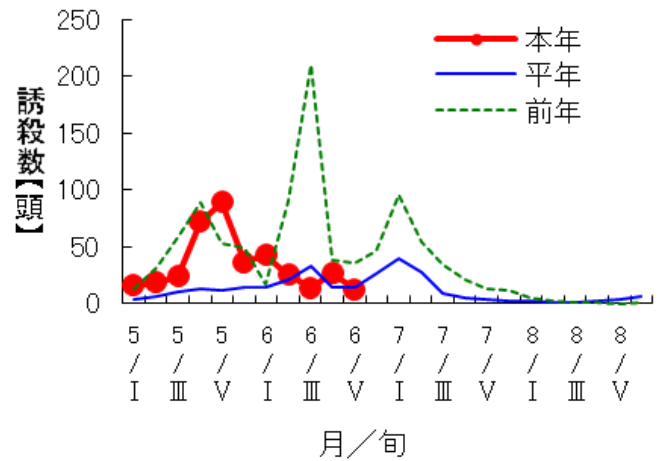


図1. トラップによるタネバエ誘殺数の推移 (高山市下林町)

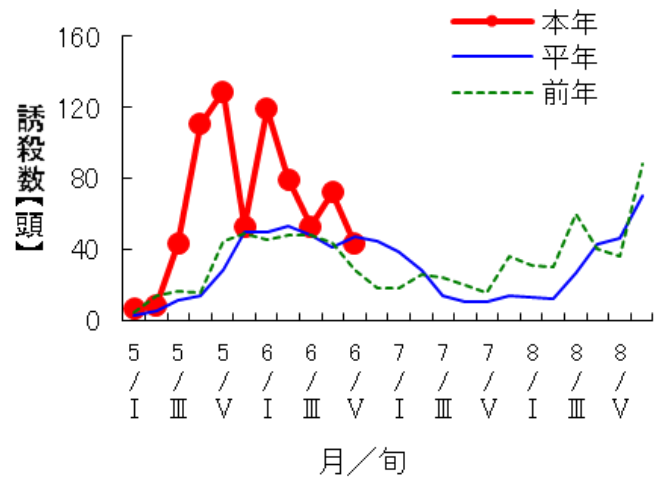


図2. 黄色水盤によるアブラムシ類誘殺数の推移 (高山市下林町)

6～8月は「農薬危害防止期間」です。

農薬の適正な使用、保管管理に努め、農薬を散布する場合は、周辺に栽培されている作物のみでなく、住宅地等を含めて飛散がないよう、十分に配慮してください。

東海地方1か月予報 (名古屋地方気象台 6月24日発表)

向こう1か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込みです。前線や湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

岐阜県病害虫防除所では、この他に病害虫の詳細な調査データをホームページにて公開しています。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/sangyo/nogyo/gifu-clean/24321/>

飛騨支所 〒506-8688 高山市上岡本町 7-468 TEL (0577) 33-1111 (内線 245) FAX (0577) 34-2706